

病院で働く管理栄養士の仕事

医療法人社団 日晴会 久恒病院 市川麻美子

1.はじめに

2001年女子栄養大学へ入学し、兼ねてより興味があったスポーツ栄養分野を受講。卒業研究では、「乳酸」について研究しました。卒業後は管理栄養士として、スポーツ分野にも力を入れている久恒病院へ入職しました。久恒病院は、各関節の手術などの症例が多く、全国よりスポーツ障害に悩む選手が訪れます。また、施設としては、ピッチャーマウンドの併設、リハビリ室内のトレーニング施設が充実しており、選手の復帰をサポートする環境が整っています。以下に、病院栄養士としての業務とスポーツ栄養分野への関わり方を紹介させていただきます。

2.仕事内容

- 1) 食事提供：・献立作成(常食、治療食、スポーツ選手用の食事、選択食)発注、在庫管理、食数管理、衛生管理
- 2) 栄養管理：・入院時のアセスメント ・栄養管理計画書の作成 ・回診(院長回診、副院長回診、総回診)、カンファレンス(症例、OPE前)より患者さんの経過観察、他部署からの情報収集 ・定期的な食事アンケート実施により、入院中の食量、食事に対する意見に対応 ・減量が必要な入院患者の体重記録、腹囲測定を実施 ・栄養指導の実施
- 3) 外来・生活習慣病科：・栄養指導(個別、集団)の実施 ・血圧測定のグラフの記入指導、経過指導 ・患者個人表を作成し、検査データ、体重、内服内容等の経過管理 ・診察、検査の予約管理
- 4) 肥満治療：・グラフ化体重日記を使用し、体重管理 ・咀嚼法により、咀嚼、早食いの改善 ・減量計画に沿った食事の提供(入院) ・MRIにて内臓脂肪、皮下脂肪測定を実施 ・採血、腹囲測定により経過観察
- 5) スポーツ栄養：・肩、肘のスポーツ障害克服目的に入院してきた選手(プロ選手、社会人、大学生、高校生)への食事提供 ・アンケートを用い、選手の食事調査(入院・外来) ・パワーポイントを使用し、選手と保護者へスポーツ栄養のレクチャー(入院・外来) ・選手の目的(減量・増量等)、検査データに応じたアドバイス(入院・外来) ・増量・減量が必要な選手の体重管理(入院・外来) ・サプリメントについてアドバイス ・リーフレットの作成、院内へ掲示、選手へ配布
- 6) メディカルチェック：・様々なチームへのメディカルチェックを定期的実施 ・選手や保護者へパワーポイントを使用し、スポーツ栄養についてのレクチャー ・食事調査、個別アドバイス、食事調査の結果を個別に返却 ・チーム、選手の成績等の情報収集

全ての仕事に対し、他職種と連携を取り、情報交換を行いながら、仕事を進めています。また、専門分野以外の知識向上の為、定期的に院内勉強会を実施しています。

3.仕事のやりがい

病院の栄養士として働いていて、一番嬉しい事は、選手が食事に興味を持ってくれることです。「入院で、一番楽しみにしていた事は、食事の話を聞くことだった。食事の話が聞けて良かった。」「うちの選手達にも話をしてほしい。今後、うちのチームを見ていってもらえないですか。」等の言葉を頂いた時に、やりがいを感じます。その中でも、一番印象に残っている出来事は、入院してきたある選手に、「3日間の短期入院だったけど、食事の話が聞けて良かった。入院した甲斐があった。」と言って貰えた事です。入職して初めてかけてもらった感謝の言葉は、5年経った現在も支えになっています。この選手は、入院時、社会人野球チームに所属しており、入院翌年にプロ野球球団へ入団されました。

当院を訪れ、復帰を果たされた、あらゆる分野、あらゆる年齢のスポーツ選手の活躍が、仕事の励みになっています。

実際に、現場で働き、栄養サポートを実施していく為には、知識だけでなく、スキルの必要性を感じました。

今後は、スキル、知識を向上し、病院栄養士として、スポーツ栄養での活躍の場を広げていきたいと考えています。

市川 麻美子 管理栄養士 女子栄養大学栄養学部栄養学科実践栄養学専攻卒業

平成17年医療法人社団 日晴会 久恒病院入職 2010/8/17